株式会社文光堂

『血液透析トラブルシューティングAtoZ』

正 誤 表

本書におきまして，下記の通り記載内容に誤りがございました．訂正してお詫びいたします．

（2023 年 11 月 24 日作成）

刷	頁	該当箇所	誤	正	更新日
1 刷	61 ～ 62	61 頁 本文 23 行目～ 62 頁 本文 1 行目	フォローアップ ●カルシウム受容体作動薬を新規に投与後，3 ヵ月程度は PTH の適正管理を目的として月 2 回の PTH 測定が可能であり，その後は月 1 回の測定とする． ●高度の SHPT に VDRA を投与後，PTH が管理範囲程度まで低下すると，骨代謝回転も抑制されて血清カルシウム値が上昇しやすくなるので注意が必要である． ●シナカルセトは消化器系副作用の発現が多いので，治療効果が十分でない，効果に変動があるなどの場合は服薬順守を再度確認し，エボカルセトや静注製剤への変更を検討する． ●カルシウム受容体作動薬を新規に投与後 3 ヵ月程度は PTH の適正管理を目的として月 2 回の PTH 測定が可能であり，その後は月 1 回の測定とする． ●高度の SHPT に VDRA を投与後 PTH が管理範囲程度まで低下すると，骨代謝回転も抑制されて血清カルシウム値が上昇しやすくなるので注意が必要である． ●シナカルセトは消化器系副作用の発現が多いので，治療効果が十分でない，効果に変動がある，などの場合は服薬順守を再度確認し，エボカルセトや静注製剤への変更を検討する． ●副甲状腺摘出術（PTx：parathyroidectomy）施行とシナカルセト投与の 2 群において 6 年間の予後を比較した国内のコホート研究では，PTx 群の全死亡リスクがシナカルセト群に比較して有意に低値であった．このリスク低下は血清カルシウム値が 10mg/ dL 以上，PTH が 500pg/mL 以上で顕著であり[4]，高カルシウム血症を呈する高度の SHPT では PTx を考慮する．	フォローアップ ●カルシウム受容体作動薬を新規に投与後，3 ヵ月程度は PTH の適正管理を目的として月 2 回の PTH 測定が可能であり，その後は月 1 回の測定とする． ●高度の SHPT に VDRA を投与後，PTH が管理範囲程度まで低下すると，骨代謝回転も抑制されて血清カルシウム値が上昇しやすくなるので注意が必要である． ●シナカルセトは消化器系副作用の発現が多いので，治療効果が十分でない，効果に変動があるなどの場合は服薬順守を再度確認し，エボカルセトや静注製剤への変更を検討する． ●副甲状腺摘出術（PTx：parathyroidectomy）施行とシナカルセト投与の 2 群において 6 年間の予後を比較した国内のコホート研究では，PTx 群の全死亡リスクがシナカルセト群に比較して有意に低値であった．このリスク低下は血清カルシウム値が 10mg/ dL 以上，PTH が 500pg/mL 以上で顕著であり[4]，高カルシウム血症を呈する高度の SHPT では PTx を考慮する．	2023/11/24
〃	123	本文 22 行目～ 28 行目	1）B 型肝炎ウイルス（HBV） ● HBs 抗原陽性あるいはワクチン接種や既感染により HBs 抗体価が 10mIU/ mL 以上となった免疫獲得者（その後抗体価が減少した場合も含む）については経過観察のみでよい．HBs 抗体価が 10mIU/mL 未満のワクチン未接種あるいはワクチン無反応の職員には，抗 HBs ヒト免疫グロブリン（HBIG）をできるだけ早く（遅くとも 48 時間以内に）投与し，HB ワクチンを曝露後 7 日以内に 1 回目 10ng（0.5mL），1 ヵ月後（2 回目）同量，6 ヵ月後（3 回目）同量を投与する． ● HBs 抗原陽性あるいはワクチン接種や既感染により HBs 抗体価が 10mIU/ mL 以上となった免疫獲得者（その後抗体価が減少した場合も含む）については経過観察のみでよい．HBs 抗体価が 10mIU/mL 未満のワクチン未接種あるいはワクチン無反応の職員には抗 HBs ヒト免疫グロブリン（HBIG）をできるだけ早く（遅くとも 48 時間以内に）投与し，HB ワクチンを曝露後 7 日以内に 1 回目 10ng（0.5mL），1 ヵ月後（2 回目）同量，6 ヵ月後（3 回目）同量を投与する．	1）B 型肝炎ウイルス（HBV） ● HBs 抗原陽性あるいはワクチン接種や既感染により HBs 抗体価が 10mIU/ mL 以上となった免疫獲得者（その後抗体価が減少した場合も含む）については経過観察のみでよい．HBs 抗体価が 10mIU/mL 未満のワクチン未接種あるいはワクチン無反応の職員には，抗 HBs ヒト免疫グロブリン（HBIG）をできるだけ早く（遅くとも 48 時間以内に）投与し，HB ワクチンを曝露後 7 日以内に 1 回目 10ng（0.5mL），1 ヵ月後（2 回目）同量，6 ヵ月後（3 回目）同量を投与する．	〃